



**JT Group**

# **2025年度 第2四半期 決算説明会**

---

**古川博政**

JT Group CFO

※本資料に含まれる数値は各事業の業績を分かりやすく説明するために使用しており、財務諸表の数値と異なる場合があります。

※用語の定義については、スライド19以降に記載しております。

# 将来に関する記述等についてのご注意

本資料には、当社又は当社グループの業績に関連して将来に関する記述を含んでおります。かかる将来に関する記述は、「考えています」「見込んでいます」「予想しています」「予想しています」「予見しています」「計画」「戦略」「可能性」等の語句や、将来の事業活動、業績、事象又は条件を表す同様の語句を含むことがあります。将来に関する記述は、現在入手できる情報に基づく経営者の判断、予測、期待、計画、認識、評価等を基礎として記載されているに過ぎません。これらの記述ないし事実又は前提（仮定）については、その性質上、客観的に正確であるという保証も将来その通りに実現するという保証もなく、当社としてその実現を約束する趣旨のものでもありません。また、かかる将来に関する記述は、さまざまなリスクや不確実性に晒されており、実際の業績は、将来に関する記述における見込みと大きく異なる場合があります。

その内、現時点で想定される主なものとして、以下のような事項を挙げることができます（なお、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません）。

1. 喫煙に関する健康上の懸念の増大
2. たばこに関する国内外の法令規則による規制等の導入・変更（増税、たばこ製品の販売、国産葉たばこの買入れ義務、包装、ラベル、マーケティング及び使用に関する政府の規制等）、喫煙に関する民間規制及び政府による調査の影響等
3. 国内外の訴訟の動向
4. たばこ事業以外へ多角化する当社の能力
5. 国際的な事業拡大と、日本国外への投資を成功させる当社の能力
6. 市場における他社との競争激化、お客様の嗜好・行動の変化及び需要の減少
7. 買収やビジネスの多角化に伴う影響
8. 国内外の経済状況
9. 為替変動及び原材料費の変動
10. 自然災害及び不測の事態等

# 2025年度 第2四半期実績

---

# 2025年度 第2四半期実績：たばこ事業のトップライン成長に牽引された力強い実績



(億円)	2025年 1-6月	前年同期比
為替一定ベース		
Core revenue	17,245	+14.2%
調整後営業利益	5,651	+24.7%
財務報告ベース		
売上収益	17,345	+10.5%
調整後営業利益	5,399	+19.2%
営業利益	4,799	+10.9%
四半期利益	3,199	+4.8%

注：IAS第29号超インフレ会計の適用に伴い、上記の表に記載の財務報告ベースの実績は超インフレ会計の影響を含みます。為替一定ベースの実績は、特定市場のハイパーインフレーションに伴う売上及び利益の増加分について、一定の算定方法を用いて控除しています。

## 売上収益・調整後営業利益

- たばこ事業におけるオーガニックベースでの好調なパフォーマンスに加えて、VGR\*の買収効果もあり、大幅な成長

## 為替影響（たばこ事業）

- 調整後営業利益における為替影響は、対円での各現地通貨安の影響を主因にネガティブに発現

## 営業利益

- 調整項目において、塩野義製薬株式会社への当社医薬事業の承継等に伴う減損損失の計上、並びにVGR買収に伴う無形資産償却費の増加があるものの、調整後営業利益の増加により増益

## 四半期利益

- 金融損益の悪化及び法人所得税費用の増加があるものの、営業利益の増加により増益

たばこ事業 数量実績：  
Combustibles販売数量の底堅いパフォーマンス / RRP販売数量は二桁成長



(億本)	2025年 1-6月	前年同期比
総販売数量	2,833	+0.7%
Combustibles 販売数量	2,770	+0.3%
GFB販売数量	2,025	+1.1%
RRP販売数量	63	+20.2%
HTS販売数量	50	+29.5%

Combustibles

- VGR買収効果が後押ししたEMAクラスターにおける力強い数量成長
- 多くの市場における好調なシェアモメンタムの継続
- 主要市場におけるCombustibles総需要は、主に日本・英国において減少したものの、ロシア・トルコでは堅調に推移

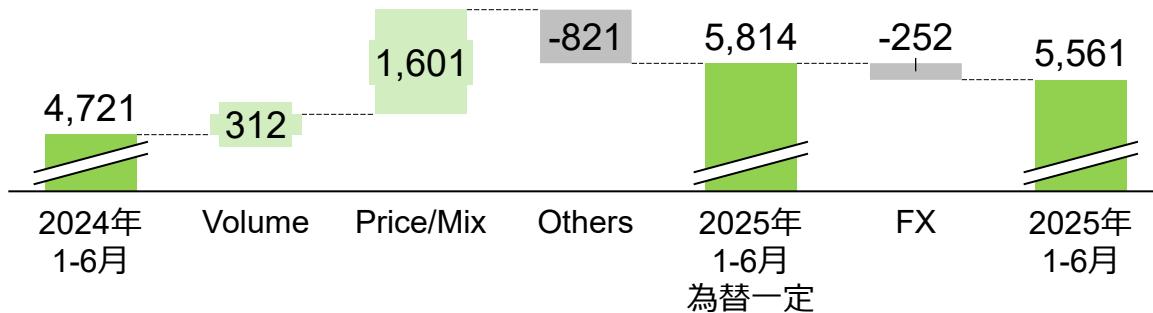
RRP

- 各市場におけるPloomが牽引した継続的な数量及びシェアの伸長
  - 日本においてPloom AURA及びEVOの良好な立ち上がりを確認

# たばこ事業 財務実績： プライシング効果が力強く発現。トップラインの伸長が牽引した二桁の利益成長

(億円)	2025年 1-6月	前年同期比
自社たばこ製品売上収益	15,525	+11.5%
(同 為替一定)	15,987	+14.9%
調整後営業利益	5,561	+17.8%
(同 為替一定)	5,814	+23.1%

調整後営業利益 増減要因 (億円)



注：IAS第29号超インフレ会計の適用に伴い、上記の表に記載の財務報告ベースの実績は超インフレ会計の影響を含みます。為替一定ベースの実績は、特定市場のハイパーインフレーションに伴う売上及び利益の増加分について、一定の算定方法を用いて控除しています。

## Volume

- 主にVGR買収に伴う数量増及び市場構成比の改善により数量効果はポジティブ

## Price/Mix

- フィリピン・ロシア・英国を中心に多くの市場においてプライシング効果が力強く発現

## Others

- Ploomへの投資強化
- インフレに伴うサプライチェーンコストの増加

## FX

- 調整後営業利益における為替影響は、対円での各現地通貨安の影響を主因にネガティブに発現

# たばこ事業：クラスター別実績



## ASIA



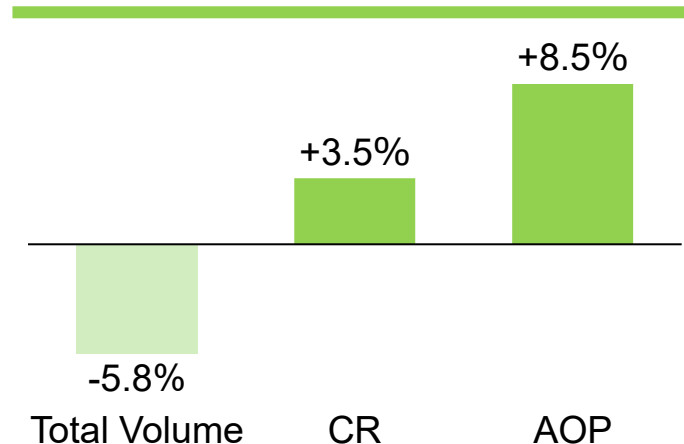
### Total Volume

- 台湾等における市場シェア伸長
- 日本におけるPloomの伸長
- 日本・台湾におけるCombustibles総需要の減少

### CR/AOP

- 主にフィリピンにおいて発現したプライシング効果が、ネガティブな数量効果を相殺

## WESTERN EUROPE



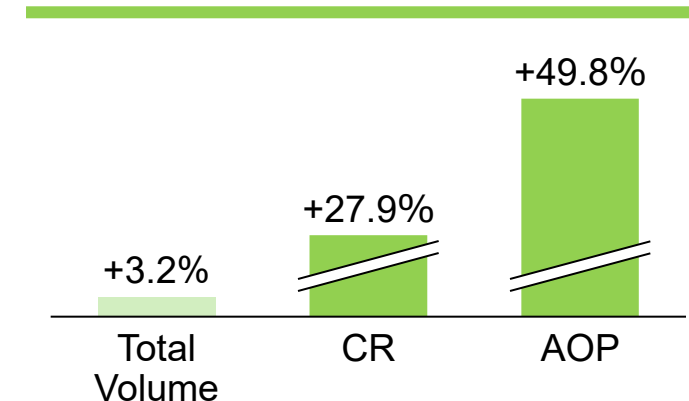
### Total Volume

- 英国等における市場シェア伸長
- Ploomの継続的なシェア伸長
- 英国等におけるCombustibles総需要の減少
- イタリア・スペインにおけるネガティブな流通在庫調整影響

### CR/AOP

- イタリア・英国を中心に発現したプライシング効果が、ネガティブな数量効果を相殺

## EMA



### Total Volume

- VGR買収効果
- トルコをはじめとした各市場における販売数量及びシェアの伸長
- ロシア・トルコにおける堅調な総需要

### CR/AOP

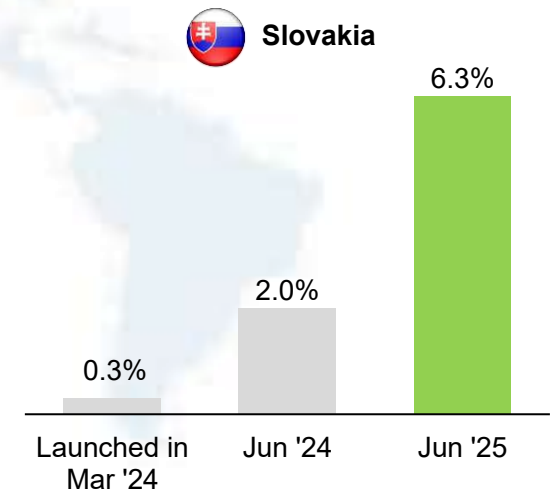
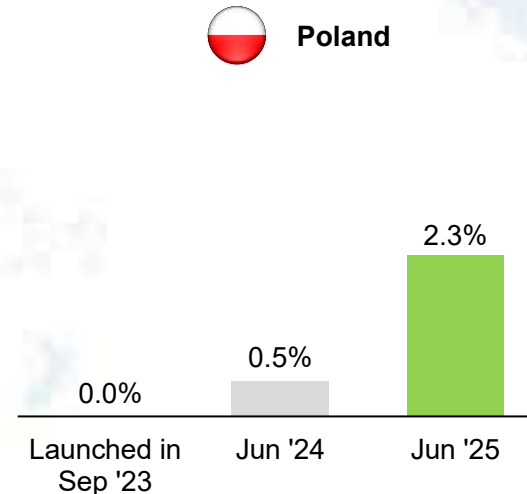
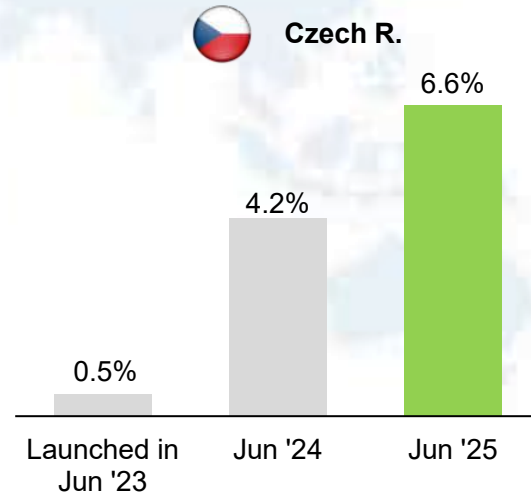
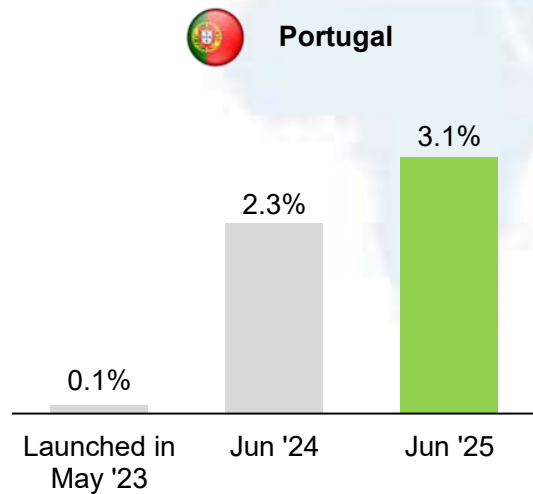
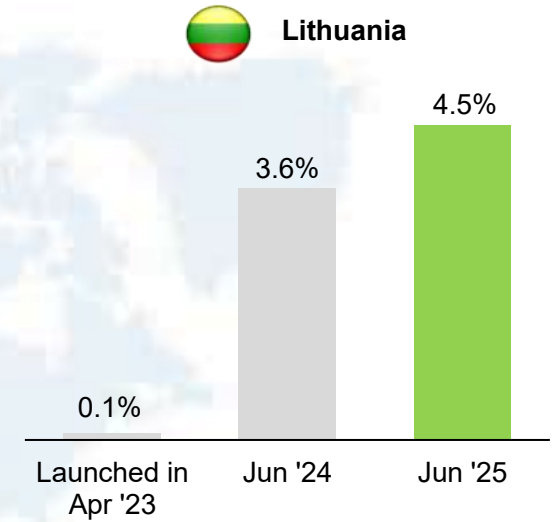
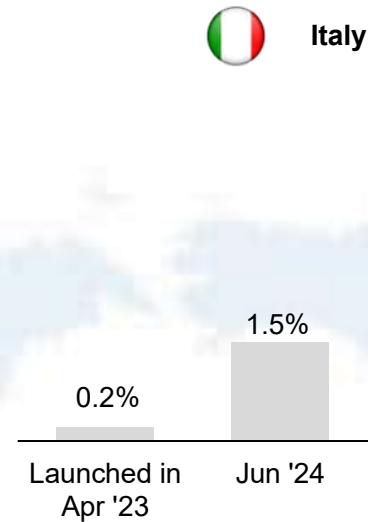
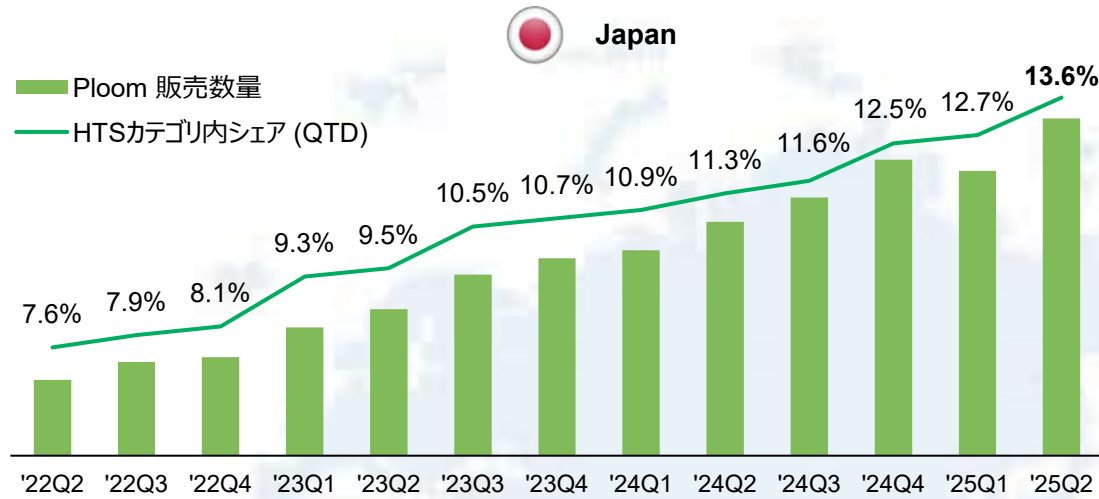
- VGR買収効果によるポジティブな数量効果
- ロシア・トルコ等の複数市場で発現したプライシング効果

- Ploomの投資強化 / インフレに伴うサプライチェーンコストの増加

# たばこ事業 Ploom Global Overview : 着実なシェアの成長が継続

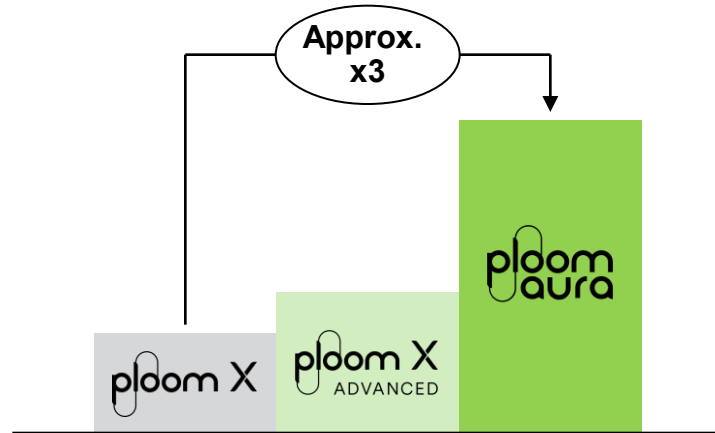


## HTSカテゴリ内シェア



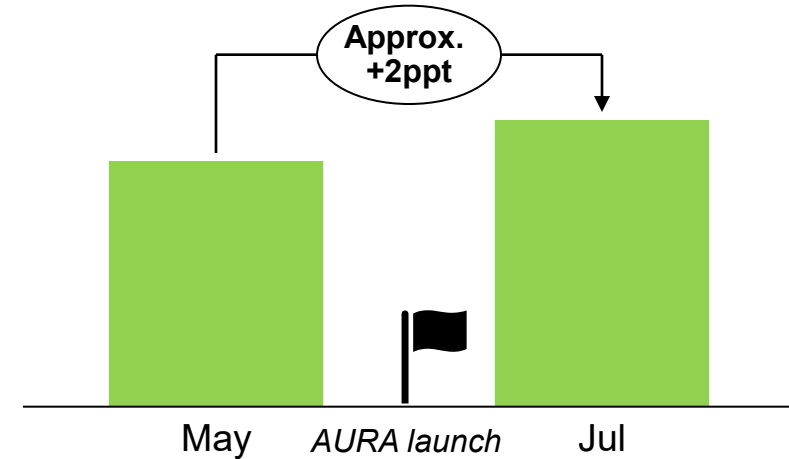
# たばこ事業：日本においてPloom AURAの良好な立ち上がりを確認

Ploom AURA デバイス累計販売台数比較



JT推計。日本における実需ベースの同チャネル/販売日数（全国拡販後3週間）における各モデルのデバイス販売台数比較。一部の主要販売チャネルにおける実需ベースのため、市場全体における比較結果と異なる場合あり

HTS カテゴリ内シェア



JT推計。日本における実需ベースのHTSカテゴリ内シェア。5月及び7月1-21日までの平均値比較。一部の主要販売チャネルにおける実需ベースのため、市場全体における比較結果と異なる場合あり

- 日本において5月27日にPloom AURA及びプレミアムブランドのEVOを発売。7月1日より全国に拡販しており、良好な立ち上がりを確認
  - Ploom AURAの販売台数は、過去の当社HTSデバイスの実績を大きく上回る
  - お客様からは、味・吸いごたえ及びデザインを中心に良好なフィードバックを獲得  
(「吸いごたえが向上し、しっかりとした味わいを感じられる」「デザインがスリムになり持ちやすい」等)
  - Ploom AURA及びEVOの投入により、HTSカテゴリ内シェアの成長が加速
- 海外市場においても順次Ploom AURAへの切り替えを予定。2028年のRRP中期展望達成に向けて着実に進捗

## 加工食品事業

(億円)	2025年 1-6月	前年同期比 増減
売上収益	767	+29
調整後営業利益	26	-18

## 医薬事業\*

(億円)	2025年 1-6月	前年同期比 増減
売上収益	483	+43
調整後営業利益	42	+2

\*2025年度第3四半期より医薬事業は非継続事業に分類予定

### 売上収益

- 価格改定に加え、冷食・常温事業における販売伸長により増収

### 調整後営業利益

- 売上収益の増加はあるものの、原材料費の高騰により減益

### 売上収益

- 鳥居薬品株式会社における皮膚疾患領域及びアレルギー領域の売上伸長に加え、海外ロイヤリティ収入の増加により増収

### 調整後営業利益

- 売上収益の増加が販管費の増加を相殺し前年同水準

# 2025年度 修正見込

---

# 2025年度 全社修正見込：各P&L指標において上方修正



(億円)	2025年 修正見込	対当初見込 増減	前年度比
為替一定ベース			
Core revenue	32,860	+540	+8.4%
調整後営業利益	8,620	+470	+14.6%
財務報告ベース			
売上収益	33,440	+710	+6.2%
調整後営業利益	8,240	+890	+9.6%
営業利益	7,390	+680	+128.5%
当期利益	4,940	+440	+175.6%
FCF	2,360	-1,120	+655億円

注：IAS第29号超インフレ会計の適用に伴い、上記の表に記載の財務報告ベースの見込は超インフレ会計の影響を含みます。為替一定ベースについては、特定市場のハイパーインフレーションに伴う売上及び利益の上期における増加分について、一定の算出方法を用いて控除しています。

Core revenue：+540億円

- たばこ事業における大幅な上方修正を、当社医薬事業の承継等に伴う医薬事業の下方修正が一部相殺

調整後営業利益：為替一定 +470億円 / 財務報告 +890億円

- たばこ事業におけるトップラインの上方修正が主因
- ネガティブな為替影響は、想定為替レートの見直しにより当初見込比で縮小

営業利益：+680億円

- 調整後営業利益の上方修正を、調整項目における当社医薬事業の承継等に伴う減損損失の計上等が一部相殺

当期利益：+440億円

- 営業利益の上方修正を、金融損益の悪化が一部相殺

FCF：-1,120億円

- 調整後営業利益の上方修正並びに当社医薬事業の承継等に伴うキャッシュインを、カナダの訴訟和解に伴う頭金の支払い並びに運転資本の増加が相殺

\*カナダにおける訴訟の和解に伴い、2024年12月期決算数値において、訴訟損失引当金（3,756億円）を営業費用として計上。当該影響を除いた場合、営業利益及び当期利益はそれぞれ前年度比+6.0%、+6.6%となる見込

# 2025年度 たばこ事業：上期の好調な実績を反映し通期見込を上方修正



## 数量前提

	2025年 修正見込	当初見込
総販売数量	前年度比 約-1.0%	前年度比 -2.0~-1.0%

## 財務見込

(億円)	2025年 修正見込	対当初見込 増減	前年度比
自社たばこ製品 売上収益	29,950	+700	+7.8%
(同 為替一定)	30,500	+800	+9.8%
調整後営業利益	8,600	+840	+8.6%
(同 為替一定)	8,980	+420	+13.4%

注：IAS第29号超インフレ会計の適用に伴い、上記の表に記載の財務報告ベースの見込は超インフレ会計の影響を含みます。為替一定ベースについては、特定市場のハイパーインフレーションに伴う売上及び利益の上期における増加分について、一定の算出方法を用いて控除しています。

## 数量前提

- Combustiblesカテゴリにおける好調なシェアモメンタム及び一部市場における底堅い総需要トレンドを織り込み上方修正
  - 下期：10月以降にVGRの買収効果が一巡

## 財務見込

- Ploomへの追加投資等を見込むものの、力強いプライシング効果及び数量前提の見直しにより上方修正
  - 下期：数量及びコストベースの前提における上期との差異により、自社たばこ製品売上収益及びAOPの成長は上期比で鈍化する見込み

## 為替影響

- 調整後営業利益におけるネガティブな為替影響は、当初見込比で縮小する見込み

(当初見込：-800億円 / 修正見込：-380億円)

# 2025年度 加工食品事業・医薬事業：修正見込

## 加工食品事業

(億円)	2025年 修正見込	対当初見込 増減	前年度比 増減
売上収益	1,650	+20	+78
調整後営業利益	85	-	+4

## 医薬事業\*

(億円)	2025年 修正見込	対当初見込 増減	前年度比 増減
売上収益	690	-280	-255
調整後営業利益	100	+60	+8

\*2025年度第3四半期より医薬事業は非継続事業に分類予定

### 売上収益

- ・ 冷食・常温事業における販売伸長を織り込み上方修正

### 調整後営業利益

- ・ 売上収益の上方修正はあるものの、原材料費の高騰を見込むことにより、当初見込から変更なし

### 売上収益

- ・ 海外ロイヤリティ収入の上振れを見込むものの、当社医薬事業の承継等に伴い、当社医薬事業及び鳥居薬品の業績を連結除外することにより下方修正

### 調整後営業利益

- ・ 売上収益の下方修正はあるものの、連結除外に伴う研究開発費の剥落により上方修正

# Closing remarks

---

## 上期実績

- 引き続きプライシングをドライバーとしたたばこ事業のトップライン成長が牽引し、全社為替一定調整後営業利益は20%超の成長
  - VGRの買収効果も想定通りに発現
- 各市場におけるHTSカテゴリ内シェアは着実に伸長
  - 日本においてローンチしたPloom AURA及びEVOの良好なモメンタムを確認

## 通期修正見込

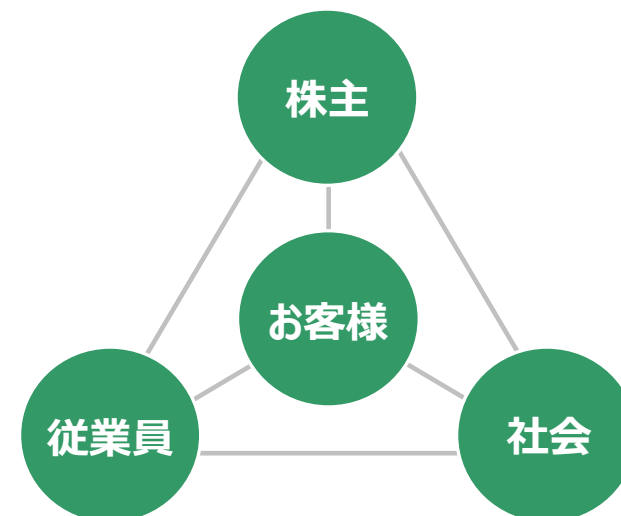
- たばこ事業における力強い事業モメンタムを織り込んだことに加えて、想定為替レートの見直しもあり、全社のボトムラインまでの各指標を上方修正

## 株主還元

- 1株当たり年間配当金予想は、今回の通期業績予想の上方修正を受け、株主還元方針に則り、14円増配の208円\*  
なお、当期配当の算定にあたっては継続事業ベースでの配当性向を基に決定
- 中間配当は、104円

\*配当性向 74.8%（スライド18に記載の「継続事業からの当期利益」をベースとした配当性向は74.9%）

心の豊かさを、  
もっと。



**ご参考：**

**塩野義製薬株式会社への当社医薬事業の承継等に伴う  
2025年度第3四半期以降の連結業績に係る開示について**

---

# 2025年度第3四半期以降の開示



IFRSの規定に基づき、  
医薬事業の実績及び見込は2025年度第3四半期より非継続事業に分類

- 連結業績は、継続事業及び非継続事業に区分して表示
  - 医薬事業の実績は、2025年度第1四半期から遡及して非継続事業に分類
  - 5月7日のプレスリリースに記載の通り、会社分割及び子会社の異動に係る取引から発生する財務影響についても非継続事業において計上
  - 比較情報となる前年同期比の実績についても継続事業及び非継続事業に区分して表示
- 本日7月31日公表の修正見込を継続事業・非継続事業に分類した場合の計数は右表のとおり

## 【Q3以降の開示イメージ (Q2修正見込ベース)\*】

(億円)		2025年 修正見込
財務報告ベース		
売上収益	継続事業	32,750
調整後営業利益	継続事業	8,140
営業利益	継続事業	7,510
当期利益	継続事業	4,930
	非継続事業	10
	合計	4,940

\*計数は現時点における試算ベース

# <用語の定義>



調整後営業利益	営業利益 + 買収に伴い生じた無形資産に係る償却費 + 調整項目（収益及び費用）* *調整項目（収益及び費用）= のれんの減損損失 ± リストラチャリング収益及び費用等
為替一定ベース	前年同期の為替レートを用いて換算／算出することにより、為替影響を除いた指標。 ただし、為替一定ベースの実績は追加的に提供しているものであり、国際財務報告基準（IFRS）に基づく財務報告に代わるものではない
為替一定ベースcore revenue (全社)	為替一定ベースの自社たばこ製品売上収益 + 医薬事業・加工食品事業・その他の売上収益
自社たばこ製品売上収益	物流事業／製造受託等を除く売上収益
四半期利益／当期利益	親会社の所有者に帰属する四半期利益／当期利益
Reduced-Risk Products (RRP)	喫煙に伴う健康リスクを低減させる可能性のある製品 当社製品ポートフォリオにおける加熱式たばこ／E-Vapor／無煙たばこ製品等が含まれる
Heated tobacco products (HTP)／加熱式たばこ	たばこ葉を使用し、たばこ葉を燃焼させずに、加熱等によって発生するたばこベーパー（たばこ葉由来の成分を含む蒸気）を愉しむ製品
Heated tobacco sticks (HTS)	たばこスティックを直接加熱する加熱式たばこ製品。1スティック当たりRMC1本として換算
Combustibles	製造受託／RRPを除く燃焼性のたばこ製品

## <用語の定義>

総販売数量

製造受託／RRPデバイス及び関連アクセサリーを除くたばこ製品の販売数量

Combustibles販売数量

製造受託／RRPを除く燃焼性のたばこ製品の販売数量

RRP販売数量

RMCとして換算したRRPの販売数量。ただし、デバイス／関連アクセサリー等は含まない

HTS販売数量／Ploom販売数量

RMCとして換算したHTS（Ploom）の販売数量。ただし、デバイス／関連アクセサリー等は含まない

Global Flagship Brands  
(GFB)

Winston、Camel、MEVIUS、LDの4ブランド